

# 群馬県大学図書館協議会会報

## 第3号

1997年12月15日  
群馬県大学図書館協議会発行  
〒371 群馬県前橋市荒牧町4-2  
群馬大学附属図書館気付  
TEL 027-220-7178  
FAX 027-220-7184

### 平成九年度 大学図書館研究会 於 群馬大学附属図書館

標記研究会が、十月三十一日(金)、群馬大学附属図書館を会場に、本協議会と群馬県図書館協会との共催のもと、一九加盟館二八名の参加を得て開催された。

今回はテーマとして、昨年の「図書館利用教育」に続いて、「大学図書館の電子化について」が採択された。「図書館の電子化」は、現在、ひとつ大学図書館に限らず、館種を越え、図書館界全体にとって最もホットな話題となっている。

研究会は、主催者である永倉一郎協議会会長、会場館より群馬大学附属図書館鈴木英夫事務部長の挨拶の後、学術情報センター・データベース課加徳健三課長補佐による「電子図書館サービス」と題した基調講演により幕を開けた。大型スクリーンに投影されたPC画面による約八〇分の講演、群馬大学による事例報告「電子図書館化への歩み」の後、講師を交えた活発な意見交換が行われた。

#### 基調講演

#### 「電子図書館サービス」

学術情報センター 事業部  
データベース課  
加徳健三

(これは平成九年十月三十一日に群馬大学附属図書館で開催された「群馬県大学図書館研究会」での講演内容を要約して掲載したものです。)

#### 学術情報センターとは

■学術情報の収集、整理及び提供並びに学術情報及び学術情報システムに関する総合的な研究及び開発を行うことを目的として、昭和六十一年四月に設置された大学共同利用機関  
■学術情報流通に関する研究開発とサービス事業

#### 学術情報センターの事業

- 学術情報ネットワークの運営
- 目録所在情報サービス
- 情報検索サービス
- データベース五九種類を提供
- 電子メール・電子掲示板サービス
- 研究者公募情報提供事業

ファイル名	前(10/17)まで	1997年10月24日現在				合計
		今回(10/20~10/24)更	追加	修正	削除	
図書誌	3,426,203	10,135	9,354	2,130	3,434,208	
RECON	721,813	0	0	241	721,572	
小計	4,148,016	10,135	9,354	2,371	4,155,780	
図書所蔵	29,400,678	122,573	16,030	1,718	29,521,533	
雑誌所蔵	211,611	58	506	0	211,669	
雑誌所蔵	3,103,406	1,379	5,177	526	3,104,259	
著者名典拠	963,098	1,495	504	0	963,098	
統一書名典	13,187	41	6	0	13,228	
雑誌変遷	23,671	23	0	23	23,671	

表1 総合目録データベース現況

#### WWW資源提供サービス

■電子図書館サービス  
\*総合目録データベースの現況  
データベースの収録件数は一九九七年十月二十四日現在で表1のとおりで、図書の書誌が四一六万件、所蔵が二、九五二万件、雑誌の書誌が二二万件、所蔵が三〇万件であり、図書の所蔵登録は一日平均二万件にのぼる。ILLシステムに参加の機関数は五一〇機関を越えている。

#### 電子図書館とは?

■Electronic Library & Digital Library & Virtual Library  
多様な説があり、いまのところは固定化されたものはない。

■電子的資料の収集・作成とネットワークを介しての提供機能をさしている。

■資料電子化の方式 文字入力と画像入力がある。

現在、センターが提供しているものは、後者の画像化情報である。

#### 電子図書館化の背景

##### ■技術の進歩

- ・ ネットワーク化
- ・ オンライン・リアルタイム化
- ・ マルチメディア化
- 資料の電子化(電子出版)
- ・ CD-ROM(IJEE, ADONIS, UMIなど)
- ・ オンライン出版(ACM, ELSEVIER, 日本化学会)

など、出版界も電子出版化にシフトして来ている。

■諸政策 この間、提言された電子図書館に関する主な諸政策をまとめると次のようなものがある。



■「二十一世紀を展望した学術研究の総合的推進について」(平成4・7 学術審議会答申)

■「科学技術基本計画」(平成8・6 科学技術会議)

■「大学図書館における電子図書館の機能の充実・強化について」(平成8・7 学術審議会答申)

学術審議会の学術情報部会が取りまとめた建議で、大学図書館の機能強化を図るには、学術情報ネットワークの高度化、学内LANの整備及びインターネットの普及を背景として、大学図書館における電子図書館の機能の充実が緊要の課題であるとし、その上で、電子図書館の機能整備の基本的考え方、具体的方策等を示しており、電子図書館化推進への基本的指針となっている。

■「大学図書館機能の強化・高度化に関する要望書」(国立大学図書館協議会)

■「国大図協次期電算化システム専門委員会平成八年度報告」(平成9・6)

電子図書館化の動向(国内)

■奈良先端科学技術大学院大学図書館

国立大学で最初の電子図書館プロジェクト。平成八年度から運用、資料はすべてデジタル化。「居ながら図書館」(二十四時間「居ながら図書館」)

■Ariadne(電子図書館研究会) 京大の長尾教授が代表。関西文化学術研究都市推進学術委員会

の援助によるもので平成四年から富士通と共同開発。平成六年度にプロトタイプを公開。

■パイロット電子図書館実証実験(情報処理振興事業協会)

国立国会図書館など一六館が参加、図書目録八〇〇万件をデータベース化する。

■国立国会図書館関西館構想

電子図書館化の動向(アメリカ)

■National Digital Library Program

二〇〇〇年までに五〇〇万点の資料を電子化する計画。

・議会図書館を中心に一五の図書館・文書館が参加

・一九九六〜二〇〇〇年に国立の電子図書館を構築

・現在合衆国の歴史・文化に関する資料を電子化中

(American Memory Program) 二〇〇〇年までに国立電子図書館の設立に向けて、LC所蔵の歴史的資料(Americana Collections)の電子化を推進。一九九四年までに二二万冊を電子化し、四四の学校・図書館に提供。

■Digital Libraries Initiative

・National Science Foundation(NSF)

Department of Defense Advanced Research Project Agency(DARPA)

National Aeronautics and Space Administration(NASA)

による、電子図書館研究開発

の助成

・一九九四〜一九九七年に六つの大学で電子図書館の研究開発を行う

カーネギー・メロン大、カリフォルニア大(バークレー)、サンタ・バーバラ)、ミシガン大、イリノイ大、スタンフォード大がそれぞれのテーマで研究開発を実施中

・企業との共同研究

学術情報センターにおける電子図書館(NACSIS ELS)

■特徴

・文献検索とドキュメントデリバリーの統合

・コンテンツとして学協会発行の雑誌を重点にしている

・ページの画像データベースを中核としている

・インターネット上でサービス

■NACSIS ELSの進捗状況

・平成六年度から研究開発

・平成七年二月から試行サービス開始。研究者・図書館員らにモニターを実施

・平成九年四月から本格サービス開始。WS専用検索ソフト、PC及びMac用のブラウザプラグインソフトをホームページで提供

現在、二八学会 五一タイトル収録予定、一一万論文 七〇万ページを蓄積済み。平成十年からの課金方法は検討中。

NACSIS ELSの課題と展望

■望

・電子化された資料の著作権処理方式の確立

・デジタル化の最大の関門、合理的処理方法への早期の解決が望まれる。

・コンテンツの充実

・他の電子図書館との連携

・ページ画像から全文情報へページ画像と併せて、本文からの検索が可能な全文情報のデジタル化。

電子図書館機能の充実・強化とは

・電子的情報資料の収集および外部情報資源の自館での利用

・貴重書や自家生産資料の電子化

・自館所蔵資料の電子化

・他図書館との連携

電子図書館サービスのデモ WEBによる検索画面の流れは左のようになる。



図1



図4



図3

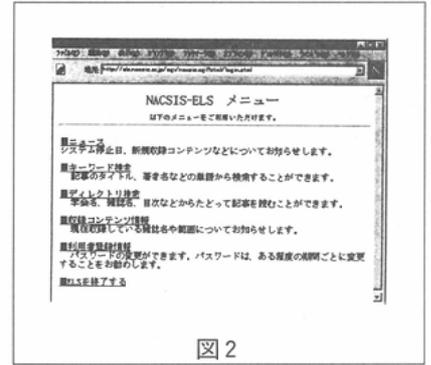


図2



図7



図6

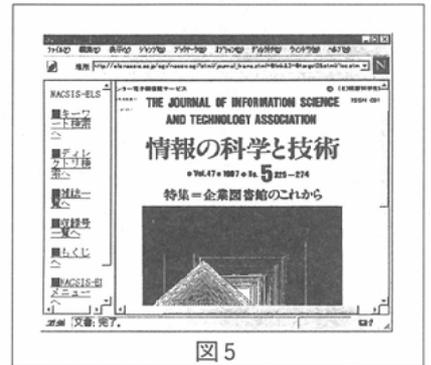


図5

参加者からの一言

育英短期大学 佐藤清美

今回の研究会では、基調講演の「NACSIS電子図書館サービス」や、群馬大学さんがインターネット上で公開している群馬大学紀要目次情報など、「自館資料の電子化」ということが特に印象に残りました。

資料の共同利用の時代を迎え、コンピュータを使って情報を引き出すばかりではなく、自大学の蔵書、紀要論文などの、情報発信もしていかなければと思いました。

桐生短期大学 教授 杉原保幸

県内の図書館のデジタル化の現状への関心と、その全国的流れを作っている学情(NACSIS)の専門家の講演と伺い参加させていただきました。

群馬大学、高崎経済大学ではオープンな環境でのシステム化が着実に進行し、また、学術雑誌を中心にやがて全文データベースへの移行可能性もあるNACSIS ELSの存在は一層そうしたシステムの利用価値を高めます。今後、後続の我々も環境を改善し、「夢を大いにふくらませたい」と思いました。

上武大学 天田めぐみ

図書館界、出版界で進行している電子図書館化の流れの大きさと速さには、畏怖の念を覚えます。いろいろ資料を読んでも、そこ

から得た情報が未消化という状態で、自己研修の必要性を痛感しています。

先進の群大図書館から教えて頂く事はたくさんあるのですが、普段気軽に覗けるのは各館のホームページです。特に工学部分館の利用者参加のコーナー(電子掲示板やブックレビュー)は興味深く拝見しています。

前橋工科大学 小池一成

電子図書館については恥ずかしながら、実際にはそれがどういったものか、またどのように利用できるのか私どもにとりましては全く未知のものでした。講習が進むにつれ、電子図書館において莫大な量の資料がストックされ、それが瞬時に引き出せるなど、近未来の図書館として、驚くべき能力を備えている事が分かりました。今後は電子図書館を最大限に利用できるよう職員一同勉強を重ね、より良い図書館サービスが提供できるよう努力して行きたいと思えます。



## ●新加盟館紹介

「放送大学群馬学習センター

図書室と図書館」

所長 清野きみ



### 群馬学習センター

ターは、生涯学習の高等教育機関として設けられた学習センターのひとつです。関東エリアには、当学習センターのほか、東京第一・第二・第三の各学習センターと、埼玉・神奈川の学習センター、甲府・諏訪地区に地区学習センターがあり、

四年以上在学して所定の単位数を修得すれば、学士(教養)の学位を取得出来ます。学びたい科目を一年あるいは一学期学習する制度もあり、全国に六万七千人の学生が学んでいます。放送大学の放送を視聴できるエリアは、関東エリアに限られています。平成十年一月下旬を目前に、通信衛星を利用したCSデジタル放送によって全国放送が始まり、いつでも、どこでも、誰でもが、学びたい時に、学びたい場所で、学びたい科目を自分の意志で決め、学ぶことが出来るようになります。我が国ではただひとつ新しいシステムによる開かれた大学といえます。

学部は教養であり、現在開講されている科目は平成十年度には三一四科目になります。センターでは面接授業や体育実技、卒業研究

の指導、学習相談、サークル活動などが行われ、図書室では再視聴できる視聴学習室が広くとられています。

教養学部は、六専攻(生活と福祉・発達と教育・社会と経済・産業と技術・人間の探求・自然の理解)に分かれています。広領域の学習分野にわたり、かつ、特定領域の学問を背景に構成されているため、放送大学の図書館には、印刷教材(テキスト)はもちろんのこと、当該学問に直接関係に係わる基本文献や資料雑誌など所蔵数は約四八万冊(群馬県では三万五千冊)。方法論や領域の切り口の転換期にある現在では、まだまだ充分ではありません。そこで、所蔵の方法における工夫や改善だけではなく、情報資料の相互貸借システムを活用して、利用システムを拡大していくことが必要になってきます。

平成九年一月に、放送大学附属図書館では図書館電算システムをクライアント/サーバー方式に変更、インターネットによる蔵書検索サービスを開始しましたので、これらは群馬学習センター図書室とは完全に繋がっていて、特に情報文献検索やレファレンスサービスには、学生のニーズに応えられるよう細心の注意を払っております。

もとより放送大学の授業は、テレビ・ラジオといった放送媒体を使って学習することが中心です。で、図書館、センター図書室の機

能には、映像音響資料室が含まれます。放送授業に使用されているビデオテープ、オーディオテープを利用し、広く社会人等に大学教育の機会を提供して、生涯学習に対する要望に応えていくことを目的に出来るのは、ひとえに図書館、図書室にあるこの機能が支えているわけです。放送エリアの全国化が実現するまで、全国の地域学習センターが担ってきたのはこの役割でした。これからは、仕事の都合で視聴出来なかつた社会人である学生たちには必要な学習の手段であろうと思われれます。



ここで、群馬学習センター図書室について利用する側からみてみましょう。揃っている「天文学の分野は特に揃っている」、辞・事典は揃っている「心理学の専門書が揃っている」などです。このほか、群馬県の歴史、人物など地域の人々の出版物が配置されており、学習センター内の「地域社会研究会」の調査報告書もあります。これからは群馬県独自のものをより一層収集していきたいものと考えております。

最後に、附属図書館には、特殊コレクション(主なものとして、アダム・スミス・コレクション以下一三点)BBCビデオライブラリー約二千五百本があり、貴重図書の一部を展示するコーナーがあります。機会があつたらご覧ください。

## 加盟館

トピックス'97

### 共愛学園女子短期大学

#### インターネットへの接続

共愛学園女子短期大学図書館は今年度インターネットを導入しました。端末はまだ一台しかありませんが、学生及び教職員が毎日情報検索に利用しています。

また電子メールによるやりとりも始めました。メールアドレスは [kyoaiib@mail.wind.co.jp](mailto:kyoaiib@mail.wind.co.jp) です。これらはまだ試験的段階なので、今後は費用の件が問題になると思っています。

なお、本学は現在四年制大学への改組転換の申請を進めています。それに伴い図書館は、蔵書の充実及び図書整備に向け動き出しています。

### 桐生短期大学

#### 看護学科の新設

桐生短期大学は、生活科学科、生活デザイン科に加え、平成九年四月、看護学科を開設した。

地域医療や看護の質的な充実には、その人材の量的確保において、今後の高齢化社会のニーズにとって、切実な問題となっている。

本学看護学科のカリキュラムの特色は、医療現場で求められる最新の看護技術を実践的に学べる点にある。理論と実践の統合として、

シミュレーション学習や体験学習など、小グループワークを取り入れている。

高度医療を支える学力養成のため、学術情報センターとアクセスした学内LANでのOA学習や、視聴覚機器を利用した授業の展開では、個々の学生を細やかに指導できるシステムになっている。

### 群馬県立医療短期大学

#### 情報提供機能の強化

学内ネットワーク環境の充実と学外利用者からの実践的専門情報要求の増加に対応し、医療・学術情報の提供機能を強化しています。

七月にNACSIS-CATに接続し事務改善に着手したのを皮切りに、年明けには図書館のホームページを立ち上げ、所蔵データをWWWブラウザで公開する予定です。

今後は更にCD-ROMサーバーによる学術情報の共有も検討しており、教育・研究の支援機関としてネットワークの実践的活用につき加盟館同士で情報交換できれば幸いです。

### 群馬県立女子大学

#### 公大協議会、大学図書館講習会に参加

「公立大学協会図書館協議会総会」(広島市、6・5〜6・6)に阿天坊館長、川島図書館課長が、「公立大学協会図書館協議会東部地区館会議」(札幌医科大学、10・3)に川島課長が出席した。

『東部会議』では、洋雑誌の価格差についても協議し、『海外集荷方式』により、円高のメリットをいかしているという、先進館からの報告があった。

また、文部省主催の「平成九年度大学図書館職員講習会」(東大図書館、11・17〜11・20)に木村佳子主任(司書)が参加し、急速な変化を求められている大学図書館について、電子図書館化、資料保存、相互協力など、多方向からの貴重な講義を賜った。

### 群馬女子短期大学

#### 司書課程カリキュラムの改訂

本学は県内外の図書館からの要請を受け、昭和四十七年に司書課程を開設し、司書及び司書教諭一、二三七名を育成し社会に送り出している。

文部省は今日の高度情報化社会、技術革新の時代に対応できる図書館専門職員を養成するため、図書館法施行規則の一部を改正した。

本学もその法改正に伴い平成十年四月から、履修すべき科目及び単位数を十六科目、二十三単位以上に改訂する予定である。教育目標として、司書職員としての基本的知識、及び技術を修得させることは勿論のこと、コンピュータに強い、また生涯学習も推進できるような人材の育成を目指している。

これらの教育目標の達成に向け図書館実習・演習を行ったり、総合科目の開講、及び教養科目の充

実にも力をいれる所存である。

### 群馬社会福祉短期大学

#### 映画「一本の手」

十月十一日(土)〜十二日(日)に本学で、映画「一本の手」の撮影が行われました。

この映画は、本学園顧問であり、日本映画界の巨匠である松山善三氏が監修・原作・脚本を担当。主演は、NHK朝の連続テレビ小説「あぐり」の主人公を演じた田中美里さんです。

有料老人ホームで巻き起こる様々な人間模様を、そこで働く新任の介護福祉士の目を通して描くという介護福祉士にスポットをあてた作品です。

十一月二十六日(水)に東京の安田生命ホールで試写会が行われました。県内では、年明けに上映が予定されています。

### 群馬大学

#### 常設展示コーナーの設置

本館では一昨年の学園祭以後、常設展示コーナーを設け、所蔵資料を広く学内外に公開している。また、展示内容については附属図書館ホームページで案内している。

- 平成九年度の展示計画は以下のとおりとなっている。
- 四〜五月 浅間山噴火の記録
  - 六〜七月 マルチメディアの世界
  - 八〜九月 教科書の歴史
  - 十〜十一月 郷土の華・かるた

### 上武大学

#### News 三題

○平成九年度第十回ブックリポートコンクール。

本年度の応募総数は、二八七編で、その中から入賞八名、佳作三八名が決まり、十一月一日(土)に表彰式が行われた。

○分館の開館時間の延長。

上武大学大学院経営管理研究科が四月に開学され、昼夜開講制度のため、附属図書館分館は、火曜日から金曜日までは二時、土曜日は九時から一七時までを開館しています。

○旧図書館棟の取り壊し。

商学部キャンパスの旧図書館棟が老朽化したので、八月五日から九月十一日の間に取り壊された。その跡地は、教育棟を新築する計画である。

### 高崎経済大学

#### 図書館新システム

本学では、平成九年度に図書館システムの移行を実施しました。新システムは、リコーのLIME DIOです。同時に学内LANに接続し、インターネット経由で学外からの検索も可能となりました。また、本学では、情報化教育の一環として南館に新コンピュータ

